

書名 項目	<p style="text-align: center;">新編 新しい技術・家庭 技術分野</p> <p style="text-align: center;">未来を創る Technology</p>	<p style="text-align: center;">2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">東 書</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスの中に掲載されている「技術の見方・考え方」のページでは社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性の4項目が掲げられている。 ○各分野の最初のページには上記の内容について簡単に触れられており、教師の指導展開に役立つ内容になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスの中に問題解決のプロセスについての記載がある。5段階に分かれており、各段階でどのような部分に着目すべきか詳細に記載されている。 ○各章の最後には「問題解決の評価、改善・修正」のページがあり、評価の観点についての記載や問題解決の成果をPRするためのアドバイス等について書かれているため、活用しやすい。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の最後に「最適化」「これからの○○の技術」のページが確保されている。よりよい生活の実現のため、持続可能な社会の構築に向けて、どのような視点、どのような考えを持つ必要があるのか、端的にわかりやすく記載されている。 ○写真資料も見やすく、わかりやすい。 <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○循環型社会の形成を目指した視点や環境とのかかわり、他業種との関連性などが記載されている。世の中にある技術について取り上げ、これからの技術をどのように工夫し、創造するのかを考えるきっかけを設けている内容となっている。 <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「作業を安全に楽しく進めよう」を設け、安全な環境、安全な行動、安全な作業における注意事項を記述し、安全への意識を高めてから各実習に取り組むことができるようにしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○本文と資料の配置が見やすいものとなっている。 ○関連している内容や資料がリンクされている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各章で統一した色での文章表現がされているため、見やすくなっている。 ○記号や図記号などには読み仮名が書かれている。理解しやすい。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○写真資料が豊富である。 ○学習指導要領の内容を網羅しているだけでなく、教師にとって補助的な内容や生徒にとってわかりやすい表現でまとめられている。 	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">新 技術・家庭 技術分野</p> <p style="text-align: center;">明日を創造する</p>	<p style="text-align: center;">6</p> <p style="text-align: center;">教 図</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○基礎・基本の知識と技能を1章で習得できるような構成にし、幅広い知識と教養を身に付けられるように配慮されている。</p> <p>○別冊のスキルアシストでは、A編からD編まで、製作や制作・育成に必要な基礎技能が多くある。基礎技能が丁寧に解説されており、作業上必ず守るべき安全についても記載されていて、使いやすい。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○問題解決の流れを考えるために、そのステップを4コマ漫画で学ぶことができ、生徒にとっては理解しやすい。その漫画では、身近な問題解決の事例を取り上げ、問題解決の流れを学ぶことができる。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各編に「やってみよう」として自ら学ぶ、グループで学ぶ問いかけが設けられている。3章には社会と関連させたサステナビリティの資料の掲載があり、社会の問題を自らの問題として主体的に取り組めるようになっている。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫></p> <p>○持続可能な開発目標の17の目標のマークを関連する学習内容につけて、日本や世界で起こる諸問題を、自らに関わる課題として捉えられるようにしている。</p> <p>○技術の発展だけでなく、地球環境への配慮として開発者や職人、地域の思いや実際の取り組みなどを紹介している。節水ノズルや25世紀の森、余った材料を無駄にしない工夫なども写真と共に紹介されていて見やすい。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫></p> <p>○ガイダンスで各教室の特徴と安全をまとめ、安全の意識を高め実習に取り組むことができるようにしている。生物育成では衛生マークを配し、特に衛生的な作業の必要性に配慮されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○学習内容の精選と重点化が図られ、本文の理解を助けるために必要な写真・イラスト・図表などが適切な箇所に配分して構成されている。</p> <p>○「見つける」では、生徒がその学習で抱くであろう疑問や関心を対話式で提示することで、学習への意欲を喚起するように工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文の文字の大きさは、生徒が読みやすいように配慮され、学習内容の重要語句は視認性を上げるために、青太文字になっており、配慮されている。中学校の配当漢字には、見開きで初出の際に振り仮名がつけられている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「見つける・学ぶ・振り返る」を基本配列として、「見つける」で学習意欲を喚起、「学ぶ」で自主的に学習、「振り返る」で学習理解の確認ができるように工夫されている。また、生徒が家庭でも主体的に自主学習できるように、丁寧な記述、文章の充実がされており、取り組みやすい題材が取り上げられていてよい。</p>	

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容で共通して、社会における技術に気づき、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見だし、課題を設定して解決を図る力を身につけることができるように、よく工夫されている。 ○学習内容毎に学習のまとめとして、テスト問題があり、身に付いた知識の確認をすることができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各学習項目では、学習課題を設けて生徒に問題意識をもたせ、CHECK でふり返ることで、自ら解決しようとする能力を養いように組織されている。 ○学習の目標と学習課題についての振り返りができるよう、「CHECK」項目が用意されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見だし、課題を設定して解決を図る力を身につけることができるように、よく工夫されている。 ○ガイダンスで例示されている製品等、身近なものが多く、生徒の興味が高まるよう工夫されている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○技術と社会・環境とのかかわりの理解を通して、生命や自然への敬意、環境保全に寄与する態度、他者や自然と共生する態度を養えるようにしている。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最後では、社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づき、技術の在り方や活用のしかたを客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度が育めるようになっている。 </p>	
資 料	○各内容は、本文、図・イラスト・写真など、いずれも正確で、わかりやすく丁寧に記述されている。写真や図版はわかりやすく、必要な箇所では、生徒が自分で作業をしているように見えるアングルで撮影して写真が使用されているなど、理解を促すための工夫がされている。	
表記・表現	○可能性の高いユニバーサルデザインフォントを使用していて読みやすく、内容に応じて適切な大きさが使われており、生徒の発達段階を配慮したものとなっている。	
総 括	○自ら問題を見だし、課題を設定して解決を図る力を身につけることができるように、よく工夫されている。社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づき、技術の在り方や活用のしかたを客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度が育めるようになっている。	